

商工会議所の役割とは？

商工会議所の仕事の一丁目一番地の目的は会員企業の商売繁盛であると自任しております。商売繁盛のハードルになっている目の前の経営の課題は何でしょうか？ 人手不足、資金繰り、事業承継などなど各社各様でありましょう。会議所がそれぞれの会社に手を突っ込んでお手伝いすることはできません。しかし、それぞれが使える道具を用意したり、アイデアや知恵を得るための環境を整備したりすることはできます。それらを処方箋にたとえると、すぐ効く薬とじっくり効く薬があります。その両方を用意します。

人手不足の解消には、地元で働いてくれる若い人たちを増やすために、合同で会社説明会を開いたり、一旦働き始めたら長く働いてもらうために「合同入社式」と「同期会」を開催したり、子供たちに地元の企業やお店でどんな仕事があるのかを体験してもらうため「小田原箱根大博覧会」の「なりわい体験」を実施したり、まだまだ元気で働く意欲のあるシニア層と会員企業とのマッチングの仕組みづくりなど様々な手を打っています。

また、最低賃金の引上げの際には、国の担当の部署である労働局へ伺って不都合な部分の改善の陳情を繰り返ししています。不都合な点とは、例えば、金額の設定が都道府県別、つまり、神奈川県下の一律であるため、小田原（神奈川県 956 円）と東京（958 円）の銀座とでたった2円しか違わなかったり、隣の静岡とは124円、山梨とは172円と大きく乖離があったり。実際の物価実態とは乖離した設定になっているので、生活保護のようにもう少し細かい地区分けができないかとお願いしています。

資金に関しては、必ずしも全てが使い勝手がいいとは言えませんが、県、国には様々な補助金や助成金の仕組みがあります。マル経融資はじめ、生産性を上げるためのIT投資や自動化などいろいろなメニューを用意しており、さらに分かりやすい広報をしております。

事業承継については、そのスムーズな実行の障害のひとつである相続・贈与関係の税制が大きく改正されることが決まりました。具体的な細則を待っているところです。分かりしだいお知らせします。また、廃業という選択をする前にその事業を引き継いでくれる人を探し、お見合いをしてもらうという仕組みも組み立て中です。

また、シャッター通りの解消にもつながるよう、空き店舗や空き家を使って商売を始める人を増やすための創業支援のプログラムも4年目に入りました。

地域外に漏れ出すお金を地域内で廻るようにするための、地域でのエネルギーの地産地消の促進にも着手しました。

それらを利用して自社の商売繁盛につなげていただきたいのです。当所は、全力で道具を用意し、環境をつくってまいります。ただ、当所は経営のお手伝いはできても、当事者になることはできませんし、御社の経営課題の解決のための全ての処方箋を持っているとは到底申せません。が、どんな課題があるかをお知らせくだされば、お役に立てるかも知

れません。私にでも職員にでもお気軽にお声がけください。すべての会員さんのところに
参上することはできませんが、ご一報いただければ即対応いたします。

会頭 鈴木悌介